

松山南高校「SS・CR 論文執筆」生徒の取組評価用ルーブリック（プロセス評価）

下表は、担当教員の立場から、指導担当班のこれまでの取組状況を点検し、今後の指導の参考にするための評価基準です。

各観点について、評価3の記載内容を高校生として標準的なレベルとします。ルーブリックを参照しながら自身の取組と論文の執筆状況について、4、3、2いずれかの評価をしてください。なお、特に達成度の高い項目（0～2項目）と特に達成度の低い項目（0～2項目）については、それぞれ5、1と評価してもよい。

今回の評価を踏まえて、次回評価時に4以上の評価が増えるように、継続的な指導助言をお願いします。

ゴシック…3を基準としたときの主な相違点・評価ポイント

愛媛大学課題研究評価ルーブリック（プロセス評価・課題発表評価 簡易バージョン）Ver1.0 を改変

領域	評価 評価の観点	(5～) 4	3	2 (～1)	取組 評価
		標準的なレベル（3）を越えて達成している。	標準的なレベル（3）をおおむね達成している	標準的なレベル（3）を達成するには課題がある	
取組 状況	計画・準備と 実施状況	主体的かつ定期的に担当教員に執筆状況を報告・相談しながら執筆を続けており、1学期末に論文が完成する見通しがある。	月に1回程度担当教員に執筆状況を報告・相談しながら執筆を続けており、1学期末に論文が完成する見通しがある。	担任・担当教員から指示があっても担当教員に執筆状況の報告・相談をほとんどしなかった。	
	好奇心・興味関 心・探究心	高い課題意識で論文執筆を進め、研究テーマに関連する文献・資料を必要に応じて再調査したり、実験を追加したりした。	研究を進めるにつれて興味を抱く事柄を発見することができたため、関心をもって研究テーマに取り組むことができた。	研究を進める中であまり興味を抱く事柄を発見することができなかったため、進んで研究テーマを深めるところまでいかなかった。	
	役割分担と協力	自分の役割を十分果たすとともに、建設的な意見を出すなど、グループ研究に貢献することができた。	自分の役割はおおむね果たしてきたが、他のメンバーへの貢献は十分ではなかった。	自分の役割を果たせず、グループの他のメンバーに頼りきりであった。	
※論文	目的と仮説	研究目的や仮説が参考文献を踏まえて述べられており、その意義がよく分かる。	研究目的や仮説が述べられている。	研究目的や仮説が述べられていない。	
	方法	研究目的にそった研究方法が述べられており、再現可能な表現がなされている。	研究目的におおむねそった研究方法が述べられている。	研究目的を達成する研究方法として不適切または十分とは言えない。	
	分析と結果	研究目的や仮説を検証するために十分な資料、グラフ等が作成・配置されており、誤差の扱いなど目的に即した優れた分析が行われている。	資料、データ、図や表、グラフ等がおおむね適切に作成されている。	資料やデータが不足している、または図、表、グラフ等やこれらのキャプションが適切に作成されていない。	
	考察	研究結果を踏まえた考察が述べられており、今後の研究の展望も示されている。	研究結果を踏まえた考察が述べられている。	考察が述べられていないか、考察として不適切である。	
	まとめ	研究の意義を踏まえながら研究目的や仮説に対する結論が述べられており、今後の展望や課題も述べられている。	研究目的や仮説に対する結論が述べられている。	研究目的や仮説に対する結論が明瞭でなかったり、根拠に欠ける結論になっていたりする。	
	表示方法と文体	統一された表示と文体で必要な専門用語が用いられている。また文章構成は論理的である。	表示と文体の統一感があり、文章構成もおおむね論理的である	表示と文体に統一感がなかったり、文章構成が論理的でなかったりする。	
評価困難な項目、※論文…未執筆の内容・項目、評価に値する文量に達しない内容・項目の評価は「0」とすること。					評価計
コメント					

担当班

評価者名

評価日

月 日